

日本原子力学会シンポジウム

「VISION2050 — 事故を振り返り未来を見据える」

— 東京電力福島第一原子力発電所事故から10年を迎えて —

コメント

---

大阪大学名誉教授

小林傳司

2021年3月11日

## 1. 未完の技術という認識はあるのか

- ・人工物の範囲を技術とみなしていないか。ヒューマンマシンインターフェースという問題の立て方(巨大複雑系システムという理解はあるが)で十分か
- ・風土、社会を含めたネットワークの作動としての技術という視点が必要では
- ・自動車の受容と比べて  
人類あるいは日本がハンドリングするのが困難な技術なのではないか、という懷疑(様々な不祥事、お金にまつわる諸事件)  
社会全体の安全管理の厳格化を必要とする技術  
(cf. IT学者の不安と懷疑「インターネットを人類が手にしてよかったのか」)

## 2. 廃棄物の問題(これが一番の難問)

- ・洋上原発の可能性(安全だという言説)  
でも廃棄物問題は解決していない。(「いや技術は完成している」、社会が受容しないという発想が問題ではないか)
- ・除染廃棄物、廃炉、デブリ、汚染土壌。。。繰り返される「国民的議論」という言葉？

### 3. 自由闊達な議論の風土の重要性

・「黙殺のメカニズム」(北村正晴)は克服できたのか:

高木仁三郎「核施設と非常事態 —— 地震対策の検証を中心に——」、『日本物理学会誌』Vol.50 No.10, 1995 (全文の閲覧が可能)

石橋克彦の議論fなど

**異分野交流は継続が課題という認識をされていた。これは大変重要。異分野交流の場合、なかなか言葉が通じないということがあるが、失望せずに継続をお願いしたい。**

### 4. 政治と切り離せない学会という特性(だから悪いと言っているのではない)

・原子力推進＝政治そのものの論点:「新增設、革新的な原子炉技術の導入を推進」  
福島で原発推進をコミュニケーションできるのか、しているのか

・例えば、「世界最高水準の規制基準」といった政府の表現についてevidence baseで説明すべきではないか。(学会の大事な役割では)